

令和 7 年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	シティプロモーション課	担当課長名	加藤 昇
-----	-------------	-------	------

1. 事業概要				部・局名	みずなみ未来部	課・所属名	シティプロモーション課
施策 体系	大 区 分	魅力あふれるまちづくり			事業 概要	民間事業者に本市の地場産品の監修を依頼し、魅力ある新たな産品の開発やブラッシュアップを実施することで、市内産業の活性化並びにシビックプライドの醸成を図ります。 また、開発した地場産品は、ふるさと納税返礼品としても活用し、ふるさとみずなみ応援寄附金の増加を図り、当該寄附金を新たなまちづくり施策に活用していきます。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2	
	中 区 分	シティプロモーション					
	小 区 分	ブランド化の推進					
実施 事業	事 業 名	地場産品ブラッシュアップ事業				翌年度以降3年間の 具体的内容	
	事業目的	市内産業の活性化並びにシビックプライドの醸成					
	目 標 指 標	当事業でブラッシュアップされた商品を選択された寄附件数					
	事業期間	R4～R6					
	総括表掲載	掲載なし					
	二次評価対象	○					
予算科目	会 計	款	項	目	事業名		
	001 一般会計	002 総務費	001 総務管理費	007 企画費	02010751	地場産品ブラッシュアップ事業	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：件）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6	7,494					7,505	14,999	5	12,423.0	7,500.0
7								6	608.0	500.0
8								7	0.0	0.0
9								8	0.0	0.0
10								9	0.0	0.0
11								10	0.0	0.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計	7,494					7,505	14,999	15	0.0	0.0
担当課 評価	実施状況	令和 6 年度は 4 事業者の商品監修を実施しました。また、名古屋ラシックにて、これまで 3 年間で監修したすべての地場産品について催事販売を実施しました。 事業実施からふるさと納税の寄附額は右肩上がりであり、本事業の効果はあったものと評価しております。								
	問題課題	国の交付金事業であり、事業の実施期間に制約があったため、商品開発スケジュールがややタイトだった点です。								
	具体的改善内容	当初の計画通り 3 年間で一定の成果があったことから終了とします。								
査定							次年度 方向性	完了		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価				二次評価委員名		(2) 個人総合評価	
達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価		意見・コメント		評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価					
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点が必要であったか評価する。	評価					
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価					

【二次評価基準凡例表】

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価 と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	シティプロモーション課	担当課長名	加藤 昇
-----	-------------	-------	------

1. 事業概要				部・局名	みずなみ未来部	課・所属名	シティプロモーション課
施策体系	大区分	魅力あふれるまちづくり		事業概要	若者のまちづくりへの参画と地域活性化のため、市と域学連携協定を締結している学校（大学3校、高校3校）が地域課題の解決に資する調査や実践活動に取り組む場合に、域学連携推進交付金を交付します。 また、若者による協働のまちづくりをさらに推進するため、令和4年度に結成した高校生や大学生を対象としたまちづくりチーム、瑞浪市役所「ミライ創ろまい課」の活動を支援し、若者が主体的にまちづくりに参画し、まちににぎわいを創出することを目指します。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2		
	中区分	協働のまちづくり					
	小区分	市民参加と協働の推進					
実施事業	事業名	域学連携推進事業		翌年度以降3年間の内容			
	事業目的	若者と行政の協働のまちづくりの推進					
	目標指標	連携事業数					
	事業期間	R2～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会計	款	項	目	事業名		
	001 一般会計	002 総務費	001 総務管理費	011 自治振興費	02011125	域学連携推進事業	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：件）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	770					1,559	2,329	5	43.0	30.0
7								6	39.0	40.0
8								7	0.0	40.0
9								8	0.0	40.0
10								9	0.0	40.0
11								10	0.0	40.0
12								11	0.0	40.0
13								12	0.0	40.0
14								13	0.0	40.0
15								14	0.0	40.0
計	770					1,559	2,329	15	0.0	40.0
担当課評価	実施状況	R6年度の域学連携年間事業数は39件と、多くの事業で連携ができております。また、令和4年度に発足した瑞浪市役所「ミライ創ろまい課」には、これまで100名以上の高校生が事業に参画しています。令和7年度も4期生を新たに36名受け入れ、総勢83名体制で地域活性化に向けて様々な取組みを実施中です。								
	問題課題	域学連携推進交付金を活用する学生グループが立ち上がらない学校もあります。また、ミライ創ろまい課への大学生の積極的な関与がまだありません。								
	具体的改善内容	高校生や大学生の若者が地域の現場に入り、地域課題の解消や活性化に資する活動は大変重要です。学校との連携を密に行い、本交付金を有効に活用した域学連携活動の実施を促していきます。また、大学生のミライ創ろまい課への関わり方を模索していきます。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

（1）項目別評価				（2）個人総合評価	
達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価		評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価		意見・コメント	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価			
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価			

【二次評価基準凡例表】

（1）項目別評価					
評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

（2）個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

（3）委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	シティプロモーション課	担当課長名	加藤 昇
-----	-------------	-------	------

1. 事業概要				部・局名	みづなみ未来部	課・所属名	シティプロモーション課
施策体系	大区分	魅力あふれるまちづくり			事業概要	市外に在住する若者等が、「ふるさとワーキングホリデー」を活用し、本市に2週間程度滞在してもらい、働いて収入を得ながら瑞浪市の暮らしを学び、体験することで、本市の関係人口の拡大と将来的な移住・定住の掘り起こしを図ることを目的に実施する。 特別交付税措置有。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2	
	中区分	住環境					
	小区分	移住定住の促進					
実施事業	事業名	お試し移住体験事業			翌年度以降3年間の内容	R8～R10：ふるさとワーキングホリデーの実施 参加者は5～6人を想定	
	事業目的	関係人口の拡大と将来的な移住・定住者の掘り起こし					
	目標指標	ふるさとワーキングホリデーの延べ参加人数					
	事業期間	R5～R10					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会計		款	項	目	事業名	
	001 一般会計		002 総務費	001 総務管理費	007 企画費	02010754	お試し移住体験事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	2,117					2,118	4,235	5	10.0	10.0
7								6	20.0	20.0
8								7	0.0	25.0
9								8	0.0	30.0
10								9	0.0	35.0
11								10	0.0	40.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計	2,117					2,118	4,235	15	0.0	0.0
担当課評価	実施状況	R6年度は県外に在住する若者10名を本市に2週間受け入れ、働きながら瑞浪市の暮らしや魅力を体験してもらうことで、本市の関係人口の創出と将来的な移住定住の掘り起こしに寄与しました。								
	問題課題	参加者の受入事業者の確保と、事業終了後における参加者のフォローアップが必要です。								
	具体的改善内容	継続的な事業の実施、過去参加者へのフォローアップを行うことで、引き続き本市の関係人口の創出や移住定住の掘り起こしを図っていきます。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価		
意見・コメント		

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	健康づくり課	担当課長名	和田 美鈴
-----	--------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	健康福祉部	課・所属名	健康づくり課
施策体系	大区分	生涯活躍のまちづくり			事業概要	小児インフルエンザ予防接種の助成を行うことで、個人の重症化予防及び経済的支援を行います。 1回2,000円を助成するもので、1歳から中学3年生を対象者としています。接種回数は12歳までは一人2回まで、13歳から15歳までは1回とします。接種場所は土岐医師会会員の市内指定医療機関です。 接種延べ人数：R4、2,132人、R5、1,845人、R6、1,599人 平均1,859人	
	中区分	健康・医療					
	小区分	疾病予防・重症化予防対策					
実施事業	事業名	小児インフルエンザ予防接種費用助成事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	小児のインフルエンザ感染症に対し個人の重症化予防					
	目標指標	小児インフルエンザ接種率					
	事業期間	H23～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会計		款	項	目	事業名	
	001 一般会計		004 衛生費	001 保健衛生費	002 予防費	04010206	小児インフルエンザ予防接種費用助成事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：％）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6						3,548	3,548	5	27.2	50.0
7								6	26.6	30.0
8								7	0.0	30.0
9								8	0.0	30.0
10								9	0.0	30.0
11								10	0.0	30.0
12								11	0.0	30.0
13								12	0.0	30.0
14								13	0.0	30.0
15								14	0.0	30.0
計						3,548	3,548	15	0.0	30.0
担当課評価	実施状況	助成事業の周知は広報やホームページで行っていますが、R3年度(新型コロナウイルス感染症拡大)以降接種率は減少しています。								
	問題課題	新型コロナウイルス感染症の影響で、医療機関受診を控えていた習慣の名残りや、ワクチンに対する認識が多様化しているためと考えられます。								
	具体的改善内容	感染症予防策の啓発に加え、ワクチン接種の有効性や助成事業の周知を行います。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	農林課	担当課長名	伊東 範明
-----	-----	-------	-------

1. 事業概要			部・局名		経済部		課・所属名		農林課		
施策体系	大 区 分	活気みなぎるまちづくり			事業概要	農産物等直売所の適正な運営に資するため、指定管理者に指定管理料を支払うとともに、空調・消防設備等の保守点検、修繕を実施します。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2					
	中 区 分	農林業									
	小 区 分	農家の育成・支援									
実施事業	事 業 名	農産物等直売所管理経費（指定管理）			翌年度以降3年間の具体的な内容						
	事業目的	農産物等直売所を地域農業の振興及び観光の拠点とし、適正に施設の管理と運営を行います。									
	目標指標	年間来場者数									
	事業期間	H24～									
	総括表掲載	掲載あり									
	二次評価対象	○									
	予算科目	会 計		款							
	001 一般会計		006 農林水産業費	001 農業費	003 農業振興費		06010327	農産物等直売所管理経費			

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6	4,880					20,200	25,080	5	466,046.0	600,000.0
7								6	497,002.0	480,000.0
8								7	0.0	504,000.0
9								8	0.0	544,000.0
10								9	0.0	550,000.0
11								10	0.0	550,000.0
12								11	0.0	550,000.0
13								12	0.0	550,000.0
14								13	0.0	550,000.0
15								14	0.0	550,000.0
計	4,880					20,200	25,080	15	0.0	550,000.0
担当課評価	実施状況	協定に基づき、指定管理者に対して施設を適正に管理・運営するよう指導したほか、空調・消防施設の保守点検を行いました。情報発信や各種データの分析、従業員向け研修、体験イベント等が実施されたことにより、来場者数(R6対比106.6%)・販売額(R6対比105.2%)を拡大することができました。								
	問題課題	来場者数・販売額の拡大を見込むため、更に市外県外に向けた情報発信に努める必要があります。また、発信する情報を充実させるためにも、新商品開発や商品のブランド化の取組みを強化します。								
	具体的改善内容	商品のブランド化を目的としたコンテストへの参加や、新商品開発を行うとともに、情報発信の強化による市外県外をターゲットとした販売額の増加を図ります。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡列表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和7年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	企画政策課	担当課長名	工藤 雄一
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要			部・局名	みずなみ未来部	課・所属名	企画政策課
施策体系	大区分	魅力あふれるまちづくり		事業概要	昭和29年に瑞浪市制が施行され、令和6年度に瑞浪市制70周年を迎えます。市民とともに節目の年を祝うため、記念事業として令和5年度にプレイベント、令和6年度に本イベントを実施します。 令和6年度は、10月13日にみずなみ世界一プロジェクトと題し『瑞浪ポーノパークの最大の試食会』をきなめた瑞浪にて開催し、ギネス世界記録に挑戦します。 特定財源：デジタル田園都市国家構想交付金 1/2	
	中区分	シティプロモーション				
	小区分	シビックプライドの醸成と多様な情報発信				
実施事業	事業名	市制70周年記念事業		翌年度以降3年間の具体的な内容		
	事業目的	瑞浪市制70周年を記念して2年にわたり実施する記念事業に市民と共に参加し、継続した祝事意識を醸成することで、令和6年度より開始する第7次瑞浪市総合計画の目標の達成に向け、市民と行政が一体感を強めるきっかけとします。				
	目標指標	参加応募者数				
	事業期間	R5～R6				
	総括表掲載	掲載なし				
	二次評価対象	○				
予算科目	会計		款	項	目	事業名
	001 一般会計		002 総務費	001 総務管理費	007 企画費	02010719 みずなみ世界一プロジェクト実施事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6	3,700					3,840	7,540	5	10,000.0	10,000.0
7								6	2,002.0	800.0
8								7	0.0	0.0
9								8	0.0	0.0
10								9	0.0	0.0
11								10	0.0	0.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計	3,700					3,840	7,540	15	0.0	0.0
担当課評価	実施状況	市内外在住の2,002名の応募者から選ばれた800名のうち、691名が参加し、664名の完食をもってギネス世界記録に認定されました。当日のきなあつ瑞浪の来場者数は、令和6年度で最多の4,037名を記録し、特産品である「瑞浪ポーノパーク」の認知拡大に寄与しました。イベントの準備片付け等を業務委託することで職員の省力化を図りました。								
	問題課題	本事業は、市若手職員で結成されたプロジェクトチームを中心に事業を進めました。挑戦内容の募集から決定、イベント参加まで多くの市民が参画できるよう工夫しましたが、次回の周年記念事業の実施にあたっては、企画の段階から市民が参画できる体制をとるか検討が必要です。								
	具体的改善内容	市民が企画段階から参加することによって、市民と行政間に、より一層の一体感が生まれ、祝事意識の醸成に繋がるのが想定されますが、意思決定のスピードが遅くなる等の課題もあるため、どのような体制で行うか慎重に検討します。								
査定							次年度方向性	完了		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価		
意見・コメント		

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	